

町田市子ども・子育て支援事業計画（案）  
に対するパブリックコメントの実施結果

2015年2月17日  
子ども生活部

# 『町田市子ども・子育て支援事業計画（案）』に関する パブリックコメント（意見募集）の実施概要

子ども・子育て支援新制度が2015年4月に全国の市町村で始まります。

町田市では、子ども・子育て支援法に基づき、5年を1期とする子ども・子育て支援事業計画を策定します。

このたび、事業計画の策定にあたって、パブリックコメントを実施し、皆様からのご意見を募集しました。実施結果の概要は以下のとおりです。貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

## 1. 意見の募集期間

2015年1月5日（月）～2015年2月4日（水）

## 2. 意見の募集方法

- 「広報まちだ1月1日号」に概要を掲載
- 町田市ホームページに事業計画（案）の概要等資料を掲載
- 市政情報課・広聴課(市庁舎1階)、子ども総務課・児童青少年課・子育て支援課(市庁舎2階)、すみれ教室、ひなた村、大地沢青少年センター、各子どもセンター、学童保育クラブ(中央、森野、金森第二、つるっこ、相原たけのこ)、各地域子育て相談センター、男女平等推進センター、各市民センター、各駅前連絡所、木曽山崎・玉川学園の各コミュニティセンター、各市立図書館(木曽山崎図書館を除く)、町田市民文学館、生涯学習センターでの資料閲覧及び配布

## 3. 寄せられたご意見

24名の方から58件のご意見をいただきました。

なお、取りまとめの都合上、いただいたご意見は要約して掲載しています。

ご意見の概要と市の考え方は、次のとおりです。

主なご意見	ご意見に対する市の考え方
1. 計画の基本的な考え方について	
(1) 教育・保育提供区域の設定について	
<p>保護者の生活圏や通勤経路等を考慮し、教育・保育の提供区域を小学校区（42区域）程度に設定してほしい。</p>	<p>利用者にとって、入所可能な施設が自宅近辺にある可能性が高くなりますが、一方で既存の施設が需要に対して多すぎる場合、廃止等の調整が必要となります。また、区域によって利用者の選択範囲に差が生じてしまうことが考えられます。</p>
2. 教育・保育の量の見込みと確保方策、実施時期について	
(1) 幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育	
<p>市として年少人口の増加や維持をしっかりと施策にし、その前提を盛り込んだ上での教育・保育量を見込んでほしい。</p>	<p>ご意見として承り、今後の施策を進める中で参考とさせていただきます。</p>
<p>すでに余剰がある1・2号認定の子ども（3歳児以上）の定員を増やすことは適当と思われない。</p>	<p>1号について、市全体では余剰が出ていますが、5地区別にみるとニーズに対して確保量が足りない地域があるため定員を増やしています。また、2号の定員については、3号のニーズに対応するための保育所整備等にもない増加しています。</p>
<p>2019年度には待機児童が解消され、その後は供給過剰となり、保育・教育施設の事業者の一部は事業撤退を余儀なくされる者が出てくるだろう。このような供給過剰に対し町田市としてどのような対策を講じるのか示してほしい。</p>	<p>定員変更や規模の縮小等、関係事業者と検討していきます。</p>
<p>2号認定で「幼児期の学校教育の利用希望が強い」人数が少なく感じる。認定こども園のことが一般的に周知されれば希望が多くなるのではないか。</p>	<p>引き続き、周知に努めていきます。</p>
<p>資料では1号と2号の教育希望のそれぞれの確保量の内訳が読み取れないが、2号の教育希望（認定こども園）の確保量では希望しても入れず、幼稚園か保育園かの選択を迫られるのではないか。希望する教育・保育施設へ入れる施策計画を望みます。また、認定こども園の入園は2号認定の人を最優先で入れるよう望みます。</p>	<p>認定こども園についても、ニーズに合わせ推進していきます。なお、認定こども園の入園につきましては、1号と2号それぞれの定員があるため、2号認定の定員は確保されています。</p>

<p>家庭的保育事業は、自宅での家庭的な雰囲気の中、少人数できめ細やかな保育を行うことができます。新しい計画においても事業を推進してほしい。</p>	<p>地域における多様な保育ニーズにきめ細かく対応できる、質が確保された保育サービスを必要に応じて今後も提供していきます。</p>
<p>働く親が安心して子どもを預けられるよう保育・教育施設を増やしてほしい。</p>	<p>保護者のニーズに合わせ必要な施設整備をしていきます。</p>
<p>(2) 地域子ども子育て支援事業</p>	
<p>①マイ保育園事業(子育てひろば)・地域子育て相談センター事業</p>	
<p>内容が充実しているのもっと広く広報してほしい。</p>	<p>引き続き、広報やホームページ、冊子、メール配信等の様々な媒体を活用し広報していきます。</p>
<p>マイ保育園の意味が分からない</p>	
<p>②こんにちは赤ちゃん訪問</p>	
<p>訪問した職員の話し方や内容に不快を感じることもあるため、アンケートをとる必要がある。</p>	<p>こんにちは赤ちゃん訪問事業を充実させるにあたり、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>③幼稚園型一時預かり、一時保育(保育所)</p>	
<p>保育・教育施設を新設するのではなく、幼稚園で未就園児及び保育園児を預かる等、既存の施設を活用すべきではないか。</p>	<p>一時預かり事業の充実を図るにあたり、ご意見を参考とさせていただきます。</p>
<p>兄弟が病気にかかったとき、病気ではない子どもを一時的に預けられる保育施設がほしい。保育園の一時保育は当日の急な保育に対応できる施設がほとんどない。</p>	
<p>0歳児、特に6か月未満児の一時保育利用は受入施設が少なく、利用希望者も多いことからほとんど利用でないため、受入可能な施設を増やし、優先的に利用できるようにしてほしい。</p>	
<p>④病児・病後児保育</p>	
<p>病児保育施設を各地域に一つずつあるように提携をしてほしい。</p>	<p>病児・病後児保育事業の充実を図るにあたり、ご意見を参考とさせていただきます。</p>
<p>保護者が病児・病後児保育を利用せずに子育てと仕事を両立できる環境を実現することがもっとも重点を置く必要がある。病児病後児保育はその実現までの経過措置的な施設として位置づけるべき。</p>	
<p>病児・病後児保育事業をもっと充実させてほしい。</p>	

⑤学童保育クラブ事業

小学6年生まで学童保育クラブを利用できるようにしてほしい。

入会要件を満たす低学年の利用については、定員を設けず受入れをしています。よって、多くのクラブで高学年を受入れる場所等の確保は困難な状況です。今後、どのような形でニーズに応えていけるか検討していきます。

入会条件が厳しく、入会できてもイベント役員等があり利用しづらい。放課後だけでなく休暇中（一日を通して）も預かってもらえる場所（小学校等）を提供してほしい。

待機児童解消のため、場所と人員の確保してほしい。

既存の保育園を利用して学童保育を実施してほしい。

放課後から親の迎えまでの間、有意義に過ごしてほしい。

学童保育クラブ事業の充実をはかるにあたり、ご意見を参考とさせていただきます。

(3) その他の取り組み

障がいのある子どもたちのための児童発達支援、放課後等デイサービスについての記載がない。障がい福祉事業計画との連携を取りながら進めていくことを分かるように記載してほしい。

事業計画の子どもは障がい児も含まれており、連携についても記載しております。

3. その他

子どもセンターの開所時間を10時から9時にしてほしい。

子どもを狙う犯罪が増えている中、横浜市や川崎市のような小学生（高学年）の居場所づくり、仕組み作りをしてほしい。

鶴間地区に公園や遊具を増やしてほしい。また、マンション内の公園を地域に開放してほしい。

つくし野や小川に公園を作してほしい。また、遊具を新しくしてほしい。

大規模な公園や子どもセンターだけでなく、小さな公園や商業施設のキッズスペース等を増やしてほしい。

町田駅周辺に未就学児の子どもが遊べるスペースがほしい。

多摩境駅周辺に図書館や子どもセンターがほしい。

ご意見として承り、今後の施策を進める中で参考とさせていただきます。

白山公園は大型の公園のため、大人の目が行き届かず、不安があります。公園内に子どもたちに遊びを教えたり、相談に乗ったりしてもらえる大人が常駐する施設がほしい。

町田市役所内の空いているスペースを子育てスペースとして開放してほしい。

市と企業が連携し、子育てしやすい環境を整備してほしい。

認可外施設を利用している家庭に、幼児教育手当以外にもほしい。

保育園・幼稚園・学校・小児科等で統一した様式（アレルギーや感染症等）の採用やスマホ・モバイル端末等で市内の小児科にすぐ予約できるシステム、また、保育園と連携し、受診に際して必要な情報提供がすぐに行える仕組みの創設。

市のサッカーチームや大学、ポプリホールなどを活用し、子どもの個性を伸ばす支援を充実させてほしい。また、公園や道路等の環境整備も連携して行ってほしい。

女性だけでなく男性に対しても早くから子育てについての啓発活動を行うことが育児参加を促すことにつながる。

市内には幼稚園の類似施設があり、保護者が運営に深く関わり、子どもの養育能力を身につける場となっています。計画にそれらの施設の場所や方針について記載してほしい。または、利用者支援事業にて紹介してほしい。

双子の会（そらまめの会）の開催日数を増やしてほしい。

兄弟が別々の保育園になると親の負担が大きいため、同じ保育園に入れることを希望する。

「まちとも」を雨天時でも体育館などで活動できるようにしてほしい。天気によって利用できなくなるので子どもの居場所がなくなってしまう。

母親が子育ての楽しさを味わえるような支援があるとよい。

市内に救急病院で小児の対応をしてほしい。また、神奈川県の小児救急も利用できるようにしてほしい。

朝夕は近隣の保育園・幼稚園の送迎拠点、日中は一時保育と低年齢児保育、夕方以降は学童保育を実施する多機能型送迎保育ステーションの創設。

ご意見として承り、今後の施策を進める中で参考とさせていただきます。

<p>保育の質を向上させるために、給料を改善し、保育士の数を増やすとともに研修などでスキルアップを支援することが効果的である。</p>	<p>ご意見として承り、今後の施策を進める中で参考とさせていただきます。</p>
<p>母の就労支援が強調されているが、預けられる子どものことがないがしろにされている。母のぬくもりが感じられるような時間が取れる環境を作ってほしい。</p>	
<p>「まちっこ」の便数を増やしてほしい。また、子どもが図書館や子どもセンターを利用しやすい時間帯に運行させてほしい。</p>	
<p>子育て情報を得られる場所が少ない。</p>	
<p>自主学校を復活させてほしい。</p>	
<p>児童館を増やしてほしい。</p>	
<p>ママたちが声を上げられるような市になるとよい。</p>	
<p>すみれ教室は、平日は17時まで・土曜日は開所していないため、就労している家庭が障がい児支援のアドバイスや指導を受けることが難しい。</p>	
<p>核家族化により祖父母の手助けが得られない家庭が増加しているため、育児支援ヘルパー派遣を利用できる期間を出産し退院した翌日から6か月までに延長してほしい。</p>	